

## 訪日外国人への防災情報提供の課題について

日本は諸外国に比べて災害が発生しやすいという側面を持ちながら、海外からの観光客の誘致や外国人留学生の受け入れに力を入れている国である。彼らが国内滞在中にこれまで日本人も経験したことがない未曾有の災害に被災する可能性は否定できない。一般的な日本人と比べて外国人はあらかじめ提供された情報やこれまでに教育などで蓄積された情報が不足しているため、災害発生時に適切な避難行動が取れないという。

本稿では訪日外国人に向けて平時から提供されている防災情報について、①多言語化の対応、②基本的な防災リテラシーの不足への対応、③訪日外国人旅行者と外国人留学生で異なる特性に合わせた対応の3つの観点から考察する。

考察の結果、①多言語化の対応については旅行者向けの情報提供は少なくとも5言語に対応していたが留学生向けの情報は日、英の2言語のみであり、その対応に差が見られた。②基本的な防災リテラシーの不足への対応については、日本人が学校教育で到達すべき内容には依然として遠いという結果が得られた。③訪日外国人旅行者と外国人留学生で異なる特性に合わせた対応については旅行者向けの情報は画像を用いた情報やイラストを用いたフローチャートなどが記載されているのに対し、留学生向けの情報はより具体的なものが多くの文章を用いて記載されていた。これらの差は両者の国内滞在期間を考慮したものであると推測できる。